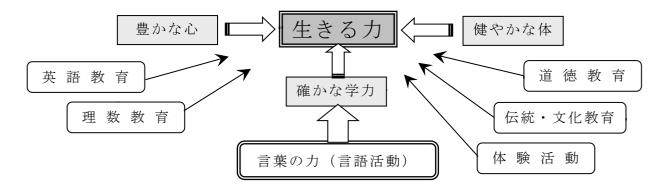
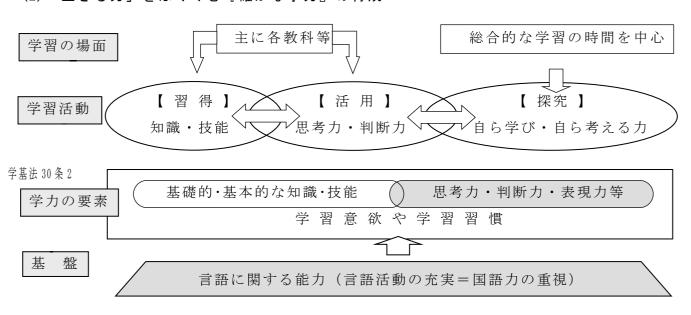
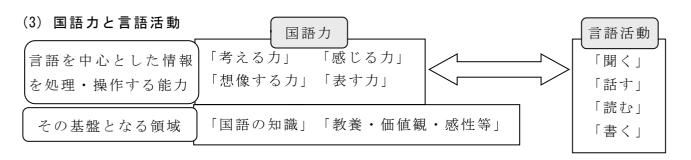
道標 (みちしるべ) 第1438号 校長 稲垣 達也

- 1 今(というより平成20年度の学習指導要領)、なぜ言語活動の充実なのか
- (1)「生きる力」という理念の継承 〔知・徳・体をバランスよく〕
 - ○ゆとりの中で子供たちに「生きる力」をはぐくむ →「ゆとり教育」の誤解
 - ○確かな学力を基盤として「生きる力」をはぐくむ ←「知識基盤社会」の時代



(2)「生きる力」をはぐくむ『確かな学力』の育成





(4) 言語の役割

【 「知的活動(論理や思考)」としての言語 「伝え合い(コミュニケーション)」の道具としての言語 「感性・情緒」の基盤としての言語

道標 (みちしるべ) 第1439号 校長 稲垣 建也

- 2 確かな学力の土台となる言語活動の充実
- (1) すべての教科等において、言語活動を充実させる(H20.3 学習指導要領より)
 - 学校生活全体を通して、言語に対する関心や理解を深め、言語環境を整え、児 童の言語活動が適正に行われるようにすること。
 - 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な 学習活動や読書活動を充実すること。

(総則 第5 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項)

(2) 国語科と各教科等の役割を明確にした指導(H20.1 中教審答申より)

国語

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力 を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、 国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

科



「知的活動の基盤」としての言語活動例

- ◇観察・実験や社会見学のレポート作成の際、視点を明確にし、見てとった 事象の差異や共通点をとらえて記録・報告する(理科、社会等)
- ◇比較や分類、関連付け、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して 説明する(算数・数学、理科等)
- ◇仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価し、まとめて表現する(理 科等)

「コミュニケーションや感性・情緒の基盤」としての言語活動例

- ◇体験したことを言葉や歌、絵、身体などを使って表現する(音楽、図画工作、美術、体育等)
- ◇体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述する(生活、特別活動等)
- ◇合唱や合奏、球技やダンスなどの集団的活動や身体表現などを通じ、他者 と伝え合ったり、共感し合ったりする(音楽、体育等)
- ◇体験したことや調べたことをまとめ、発表し合う(家庭、技術・家庭、特別活動、総合的な学習の時間等)
- ◇討論・討議などにより、意見の異なる人と協同的に議論する(道徳、特別活動等)
- このように、国語科で培った能力を基本に、それぞれの教科等の知識・技能を活用する学習活動を充実することが重要である。
- 各教科等の指導計画にこれらの言語活動を位置付け、各教科等の授業の構成や進め方自体を改善する必要がある。
- 各教科等における言語活動は、各教科等の目標・内容の実現に資するものである。

各教科等